

# めぐみイエス・キリスト教会

2019年12月22日(日)クリスマス礼拝  
週報「通算第486号」



2019年標題聖句

第Ⅱペテロ1章10節

《ですから、兄弟たちよ。ますます熱心に、あなたがたの召されたことと選ばれたこととを確かなものとしなさい。これらのことを行なっていれば、つまづくことなど決してありません。》

第一礼拝	毎週日曜日	午前10時～11時
第二礼拝	毎週日曜日	午後6時～7時
聖書の学びと祈り会	毎週水曜日	午後6時15分～7時15分

牧師 鈴木 竜 実  
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2019年12月22日 クリスマス礼拝  
第一礼拝 午前10時 第二礼拝 午後6時  
司会 鈴木 竜実牧師 奏楽 佐野 みゆきさん

### ◎礼拝プログラム

- 【前奏祈祷】
- 【賛美Ⅰ】 新聖歌79「あめには栄え」 p. 108
- 【交読文】 詩篇第149篇 旧約聖書 p. 968
- 【賛美Ⅱ】 新聖歌75「神の御子は」 p. 102
- 【使徒信条】
- 【主の祈り】
- 【先週説教】
- 【賛美Ⅲ】 オリジナルNo.14 「み言葉にかえろう」
- 【聖書朗読】 ルカの福音書1章18節～25節(新約p. 1下段)
- 【祈 禱】
- 【説 教】 《クリスマスとは?》 鈴木 竜実 牧師
- 【聖 餐 式】
- 【賛美Ⅳ】 新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」 p. 236
- 【平和祈り】
- 【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85
- 【祝祷後奏】

### ※聖書箇所「ルカの福音書2章8節～20節」(新約p. 100上段)

2:8 さて、この土地に、羊飼いたちが、野宿で夜番をしながら羊の群れを見守っていた。

2:9 すると、主の使いが彼らのところに来て、主の栄光が回りを照らしたので、彼らはひどく恐れた。

2:10 御使いは彼らに言った。「恐れることはありません。今、私はこの民全体のためのすばらしい喜びを知らせに来たのです。」

2:11 きょうダビデの町で、あなたがたのために、救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。

2:12 あなたがたは、布にくるまって飼葉おけに寝ておられるみどりごを見つめます。これが、あなたがたのためのしるしです。」

2:13 すると、たちまち、その御使いといっしょに、多くの天の軍勢が現われて、神を賛美して言った。

2:14 「いと高き所に、栄光が、神にあるように。地の上に、平和が、御心にかなう人々にあるように。」

2:15 御使いたちが彼らを離れて天に帰ったとき、羊飼いたちは互いに話し合った。「さあ、ベツレヘムに行って、主が私たちに知らせてくださったこの出来事を見て来よう。」

2:16 そして急いで行って、マリヤとヨセフと、飼葉おけに寝ておられるみどりごとを捜し当てた。

2:17 それを見たとき、羊飼いたちは、この幼子について告げられたことを知らせた。

2:18 それを聞いた人たちはみな、羊飼いの話したことに驚いた。

2:19 しかしマリヤは、これらのことをすべて心に納めて、思いを巡らしていた。

2:20 羊飼いたちは、見聞きしたことが、全部御使いの話のとおりだったので、神をあがめ、賛美しながら帰って行った。

### ●ポイント1. キリストは、どこに生まれるのか？

※ミカ書5章2節「イザヤと同時代の預言(紀元前700年)頃」(旧約p.1398)

5:2 ベツレヘム・エフラテよ。あなたはユダの氏族の中で最も小さいものだが、あなたのうちから、私のために、イスラエルの支配者になる者が出る。その出ることは、昔から、永遠の昔からの定めである。

※マタイの福音書2章1節～6節「エルサレム宮殿にて」 (新約p.2上段)

### ●ポイント2. クリスマスとは？その真の意味とは？

※ヨハネの福音書4章21節～24節「主イエス様の言葉」(新約p.163下段)

## ◎先週のメッセージの概要【ヨセフの決意】

《天使ガブリエルがマリヤの所に、訪れます。「ご覧なさい。あなたの親類のエリサベツも、あの年になって男の子を宿しています。神にとって不可能なことは一つもありません。」「お言葉どおりこの身になりますように。」

次の日マリヤは、父ヨアキムと母アンナの許可を得て、エルサレム郊外の町エンカレムに向けて旅立ちます。ルカは「マリヤは三か月ほどエリサベツと暮らして家に帰った。」と書き記しています。彼女がバプテスマのヨハネの誕生に付き添ったかどうかは、聖書には書かれてはいません。

さて、マリヤがナザレに戻って来た時に、両親は愕然とします。マリヤが妊娠していたからです。ここで初めて、マリヤは御使いガブリエルの訪問のことを告げるのです。そして、これは推測なのですが、マリヤからではなく、両親から、婚約者ヨセフにその事実が告げられたと思います。

ヨセフは相当に苦しんだはずですが。「夫のヨセフは正しい人」であったと言うことは、律法を重んじるユダヤ人であることを意味し、「妻マリヤの裏切りの罪を見逃すことは出来ない」、と言うことです。よってヨセフが取るべき態度は、申命記に書かれた二つのうちのどちらかになります。

一つは「石打の刑」です。もう一つは、「離婚状を書いて去らせる」ことです。ヨセフは、悩んだあげく後者を選びます。私は、ヨセフは、マリヤよりもかなり年上であったと思っています。しかもヨセフは、本当にマリヤを愛していたのです。そして、ついに決断し離婚状を書き、去らせることを実行しようとしたその夜、夢の中に御使いガブリエルが現われます。

「ダビデの子ヨセフ。恐れなさいあなたの妻マリヤを迎えなさい。その胎に宿っているものは聖霊によるのです。マリヤは男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。この方こそ、罪から救って下さる方です。」

このガブリエルの訪問によって、ヨセフはマリヤを妻として迎え入れ、また生まれて来る男の子を自分の子として育てる決意をしたのです。》

## ◎お知らせ

※次回礼拝は12月29日です。感謝礼拝と食事交わり会を行ないます。また次回「聖書の学び(クリスマスの続き)と祈り会」は、12月25日(水)に行ないます。1月1日(水)「聖書の学びと祈り会」はお休みします。

